

---

---

**特集：トータルケア病棟開設**

---

---

**巻 頭 言****Preface**

佐藤 信 昭

Nobuaki SATO

団塊の世代が75歳以上となる2025年には少子・超高齢社会を迎える。地域医療構想は、地域によって“スピード”と“程度”が異なる高齢化へ対応するために、地域の実情にそって医療を提供する体制を整備するものである。そのために病院が機能を明確化し、連携を強化することが重要である。当院の役割は新潟県がん診療連携拠点病院として最善のがん医療を県民を中心とした全ての患者さんに提供して、地域医療に貢献することに尽きる。最善のがん医療には、①がん専門病院として、がん予防、検診、診断、治療、緩和ケア、終末期ケアまで、トータルで患者さん、サバイバーと家族を支える、②標準的ながん治療はもちろん、がんのゲノム医療や稀少がん・小児がん対策など高度で先進的な医療に取り組む、③働く世代の患者さんが仕事と治療を両立できるように支援する、④転移・再発がんなど、がんと共に生きる患者さんが住み慣れた地域で暮らしながら治療を受けられる地域包括ケアシステムに取り組むこと等が含まれる。

病院機能の明確化と同じく、院内でも医療の質の向上のために、病棟・部門の役割を分担することが求められる。当院は、2016年10月1日よりトータルケア病棟（地域包括ケア病棟）の運用を開始した。臓器別から病状・病態別に、外来から病棟へ切れ目なく多職種がチームとして、入院時から計画的に退院後の療養まで、がん患者さんを支える体制作りづくりを進めている。地域包括ケア病棟には地域のニーズに応じて多様な機能がある。当院のトータルケア病棟はがん患者さんの退院を支援して、在宅医療や訪問看護、介護など地域と連携することで地域包括ケアシステムを円滑にすすめるためにも意義がある。トータルケア病棟を導入してから各病棟が役割を分担するため、診療報酬上の重症度、医療・看護必要度も適正化され、一般病棟での7対1入院基本料の算定に寄与している。

今後も地域医療構想、公立病院の新改革プランなどの方向性をみながら、現状を正しく分析し、病院の機能、病棟の役割を適正化して、がんセンターとしての使命を果たしていきたいと考えている。